

# BBS GROUP NEWS

(お客様とBBSをつなぐコミュニケーションツール)

BUSINESS BRAIN SHOWA - OTA GROUP NEWS

Vol.52  
JANUARY 2017



## セミナーレポート

IFRS時代の経営管理フォーラム(第8回)

「国際化への挑戦」

## サービス紹介

お客様の競争力を高める  
高品質・高付加価値のBPOサービス

サイバー攻撃から企業・団体を守る  
情報セキュリティ技術者養成サービス

BBSグループの社会貢献活動

# 「国際化への挑戦」



## グローバル化を加速するお客様に貢献していくために

多くの産業でグローバル化への対応がますます重要になっていることを踏まえ、BBSでは「国際化への挑戦」をテーマに8回目の「IFRS時代の経営管理フォーラム」を開催しました。

約350名のお客様にご参加いただいたセミナーでは、まず当社代表取締役社長の石川俊彦がご挨拶に登壇し、国内外で進めているBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）サービスの強化や、セキュリティ分野の新サービス提供など、BBSグループにおける近年の取り組みを報告。また、今年8月に創立50周年を迎えることに触れ、引き続きお客様の成果に貢献できるようグループ一丸となって取り組んでいく決意を表明しました。

このあと、ゲストスピーカーであるピーター・フランクル氏、当社コンサルタントが講演。続いて口演いただいた九代目桂文楽師匠の新作落語「試し酒」に会場は酔いしれ、好評のうちにセミナーは終了しました。

### 開催概要

日 時 2016年11月8日(火) 14:00～19:30  
会 場 東京コンファレンスセンター・品川  
主 催 株式会社ビジネスブレイン太田昭和  
参加者数 約350名

### プログラム

#### ご挨拶

(株)ビジネスブレイン太田昭和 代表取締役社長 石川 俊彦

#### 基調講演 3P

「真の国際人を目指すために」

数学者・大道芸人 ピーター・フランクル 氏

#### BBS講演 4P

「グローバル管理ツールとしてのIFRS」

(株)ビジネスブレイン太田昭和 グローバルコンサルティング事業部 上原 仁

#### BBS寄席

落語家 九代目 桂 文楽 師匠

#### 懇親会

## 基調講演

# 真の国際人を目指すために

講師 数学者・大道芸人 ピーター・フランクル氏



### PROFILE

## ピーター・フランクル

Peter Frankl

1953年ハンガリー生まれ。1971年国際数学オリンピック金メダル受賞。1977年博士号取得。1979年フランスに亡命。1988年から日本在住。ハンガリー学士院メンバー。算数オリンピック専務理事。日本ジャグリング協会名誉理事。執筆した数学論文は300篇以上に及ぶ。

## 日本のことわざを引用して 国際人に必要な視野や姿勢を紹介

基調講演には、テレビ番組への出演も多く、その活躍が広く知られるピーター・フランクル氏が登壇しました。12の言葉を話し、100以上の国や地域を訪問した経験のあるフランクル氏から、「真の国際人を目指すために」と題してお話いただきました。

クラブ(棍棒)をジャグリングしながら演壇に上がり、数々の技を披露したあと、フランクル氏は国際人に求められる視野や姿勢について言及。「日本人は国土が狭いとよく言います。確かにアメリカの4%しかありませんが、日本はイギリスやドイツより大きい」と、視野を広げることで物事の見方が変わることを指摘しました。さらに、「日本人は国際人となるための要素として英語が話せることを重視しますが、それは違うのではないかと話を進めていきました。

「コミュニケーションをとる上で英語を使えることは有意義ではあるものの、より重要なのは「コミュニケーションする姿勢」であると述べたフランクル氏は、日本のことわざを引用し、その姿勢について説明。「もし外国人に対して、『人を見たら泥棒と思え』という態度で接するなら、決して国際人にはなれません。『袖振り合うも多生の縁』と考えて出会いを大切に思い、信頼関係を築くために相手を尊重して、共通点を見つけ出そうとするのが、国際人です」と語りました。

## 「心を開く」ことで広がる 出会い、チャンス、そして信頼

このあとフランクル氏は、変化し続ける国際社会にあって、グローバルにビジネスを展開していくためには、企業の取り組みも、つくり出す製品・サービスもすべて、柔軟に変えていく必要があると説明しました。また、「真の国際人には国際社会と積極的に接して、さまざまなことを聞いて学ぶ姿勢が求められる」と述べ、具体例として「好奇心をもって海外を訪れること」「新たな価値に触れたら、比較するのではなく素直に受け取ること」「相手を尊敬し、譲り合いの心で接すること」といった姿勢を紹介しました。さらに、グローバルなビジネス社会で大切にされていることとして、“Big Smile”“Handshake”“Good Ear”の3つを挙げ、笑顔で接し、信頼を高め、相手の話を聞いて、しっかり判断することが重要であると語りました。そして参加者に向けて、“Keep your heart open.”——新しい出会い、素晴らしいチャンスがいつ訪れても対応できるよう常に心を開き、真の国際人として歩んでくださいという温かいメッセージを贈りました。

話を終えたフランクル氏は、1から6までの数字を使った面白い足し算で参加者と交流。最後は、ハンドスティックを両手にもち、センタースティックを思いのままに操る素晴らしいジャグリングテクニックを披露して、講演を締め括りました。

## BBS講演

## グローバル管理ツールとしてのIFRS

講師 株式会社ビジネスブレイン太田昭和 グローバルコンサルティング事業部 上原 仁

日本におけるIFRSの適用状況や  
適用会社の傾向を解説

当社コンサルタントによる講演では、グローバルコンサルティング事業部の上原仁が、最近のIFRS(国際財務報告基準)適用事例を紹介しながら、IFRSを経営管理ツールとして活用することのメリットやIFRS適用時の検討ポイントを解説しました。

最初に上原は、グラフを交えて東証上場会社におけるIFRS適用会社の推移を紹介。その数は適用を決定または予定している会社を含めると2016年6月末時点で141社となり、2年前の42社から大幅に増加したことを説明しました。また、株式時価総額ベースでは約30%に達し、さらに約20%が適用を検討中であることから、「時価総額で見ると数年で約半数の会社がIFRSに移行する可能性が高い」と述べました。加えて、適用会社は企業規模にかかわらず、ビジネスを国際展開している会社が多いことや、IFRSは日本基準とのれん償却や開発費の扱いに差異があり、M&Aに積極的な会社や開発費の負担が大きい会社がIFRSへ移行していることも説明しました。

IFRS適用のメリットは  
「共通のモノサシ」と「財管一致」

次に上原は、経営管理におけるIFRS適用のメリットとして、「共通のモノサシ」と「財管一致」という2つの視点を示しました。共通のモノ

サシとは、連結グループ内の評価基準をIFRSに統一して経営の見える化を実現することで、適切な意思決定を可能にするものです。もう一つの財管一致とは、財務会計と管理会計を一致させ、市場の目と経営者の目を整合させることです。いずれもグローバル経営管理の高度化につながるものであり、上原は「IFRSの適用は企業が持続的な成長を図る上で有効なツールになる」と指摘しました。

続いて、講演ではIFRS実現の3つの方式——①勘定科目方式：日本基準用とIFRS用の科目を整備して二重帳簿を実現する方式、②複数元帳方式：日本基準とIFRSの元帳を別々に保持する方式（2つの元帳を同時に動かす並列方式と、どちらか一方をメインにして他方は差分で動かす差分方式がある）、③連結方式：連結財務諸表の作成段階で日本基準からIFRSへ組替・修正する方式（子会社で修正する子会社修正方式と、親会社で修正する親会社修正方式がある）について具体的に解説しました。さらに、各方式を採用する際のメリット・デメリットを、「経営管理」「システム」「作業負荷」「内部統制」の4軸を用いたマトリックス表を提示して紹介。「グループ全体で一つの方式に統一する必要はなく、個社レベルで適用の容易な方式を運用しながら、最適な方式へ移行していけばいい」という方向性を示して、講演を結びました。

## IFRS実現方式の評価

		経営管理	システム	作業負荷	内部統制
勘定科目方式		◎	○	△	○
複数元帳方式	差分方式	◎	×	○	◎
	並列方式	◎	×	○	○
連結方式	子会社修正方式	○	◎	×	×
	親会社修正方式	△	◎	△	×

凡例

◎：優位性がある ○：やや優位性がある △：やや優位性に劣る ×：優位性に劣る



PROFILE

上原 仁

Hitoshi Uehara

監査法人勤務を経て、BBSへ入社。BBSでは、会計監査で培った知識・経験をもとに、IFRSなどの制度会計構築、内部統制構築、情報システム監査などのサービスを提供している。公認会計士、CISA(情報システム監査人)、システム監査技術者。

# お客様の競争力を高める 高品質・高付加価値のBPOサービス

BBSグループは、長年にわたって蓄積してきた専門的な知見・ノウハウを活かし、業務コストの削減にとどまらず、業務品質の向上や迅速なビジネス展開をサポートする高品質・高付加価値のBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)を提供しています。

## 持続的な成長を支援する 「High Value BPO」

国内の社会・経済環境が大きく変化し、グローバル化が進展するなか、企業が成長し続けていくためには、イノベーションの創出とともに既存業務の高度化・効率化が不可欠です。BBSは、経理財務、人事給与をはじめ、営業、購買、研究開発、コールセンターなどの分野でBPOサービスを提供し、お客様の競争力強化に貢献しています。

BBSのサービスの特長は、間接部門の課題解決につながる、より高度なBPOサービスを提供していることです。「High Value BPO」として、各種業務を組織横断的に支援するフルラインナップBPO、機能強化が必要な専門業務、グローバル化対応業務の支援、構造・業務改革に向けた継続的なコンサルティングなど、専門的な知見・ノウハウが求められる業務を支援。また、シェアード・サービス・センター(SSC)の業務改革コンサルティングもサポートしています。

## 本社機能移管の成果を活かして サービスをさらに拡充

BBSは、東京、浜松、新潟、熊本、タイ(バンコク)、ベトナム(ホーチミン)にBPOサービスの拠点を設置しています。また現在、自らの業務拡大に伴うバックオフィス機能の強化を目指し、熊本



「熊本県企業立地セミナー」の様子

BPOセンター(BBSアウトソーシング熊本)に一部の本社機能の移管を進めています。今後は機能移管で得た知見・ノウハウも活かして、お客様へ提供するBPOサービスをさらに拡充していく計画です。

この取り組みの一環として、2016年10月、熊本県などが東京で開催した「熊本県企業立地セミナー」においてBBSアウトソーシング熊本代表取締役社長の大和淑晃が講演しました。セミナーでは、熊本に拠点を開設した背景や会社の概要を説明したあと、サービスの内容を紹介。会計士など専門的な知見を持つ多くのスタッフ、また実務に精通したコンサルタントを擁し、複数のI部上場企業の多様な定型・非定型業務を支援していること、日本企業の海外拠点(18カ国27拠点)における経理財務業務を英語でサポートしていることを紹介しました。あわせて、BBSの本社機能移管の成果や今後の構想も説明しました。

### BBSのBPOサービス

サービス分野		業種・業界	
営業	購買	小売業	製造業
経理財務	総務人事	航空	金融
研究開発	コールセンター 等	住宅	公共/公益 等

## 展示会でBBSのBPOサービスを紹介

BBSは、より多くの企業のご担当者様にBPOサービスの内容や特長を紹介するために、2016年7月に開催された「会計・財務EXPO」(東京ビッグサイト)、10月に開催された「HR EXPO 人事労務・教育・採用支援展」(インテックス大阪)に出展しました。両EXPOで480を超える企業のご担当者様にBBSのブースへご来場いただき、BPOへの関心の高さがうかがわれました。



「会計・財務EXPO」の様子

# サイバー攻撃から企業・団体を守る 情報セキュリティ技術者養成サービス

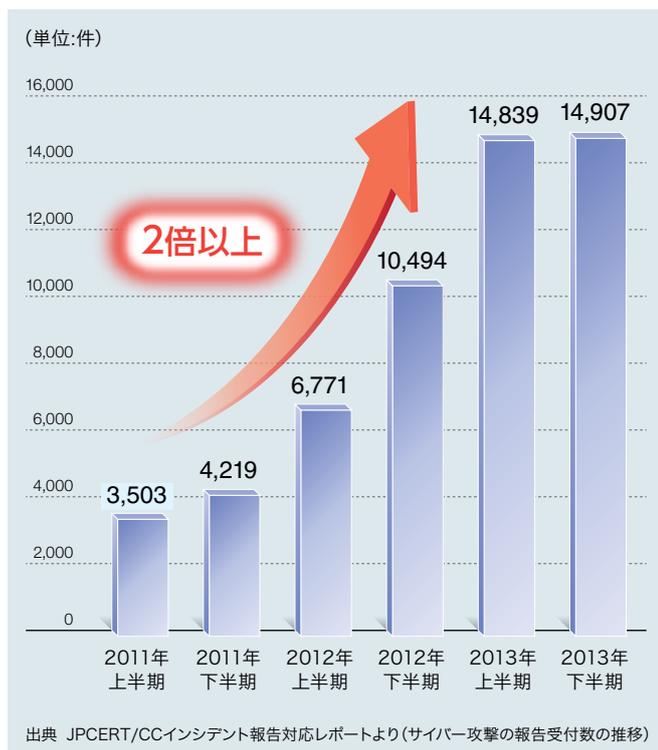
BBSグループのグローバルセキュリティエキスパート(GSX)は、世界140カ国で情報セキュリティ教育、資格認定などのサービスを展開する米国EC-Council社と独占的販売代理店契約を締結し、2016年5月からEC-Council社公認の情報セキュリティ技術者養成講座を提供しています。

日本に対するサイバー攻撃件数は  
前年対比2倍以上に増加

我が国に対するサイバー攻撃件数は、企業におけるIT活用の広がりとともに急激に増加しています。一般社団法人JPCERTコーディネーションセンターに報告があったサイバー攻撃件数は、2013年には約30,000件もありました。その攻撃手法は年々巧妙化しており、従来のウィルス型のような未然防止が可能な攻撃ではなくなっています。また攻撃の対象も広範に及んでいます。政府機関や企業の機密情報、発電所やプラントなど重要インフラに関する情報に加え、スマートフォンやタブレットなどネットワークにつながる個人の機器内に蓄積されている情報までもが標的とされています。一方、組織内部者による個人情報の漏えいは、外部からの攻撃によるものに比較して被害規模が大きくなる傾向にあります。

今後、サイバー攻撃による被害を最小化するためには、サイバー攻撃に対する防御、インシデントの早期検出、事後および遡及対応を的確に実施することが重要になります。

## サイバー攻撃の報告受付件数



約8万人が不足している  
情報セキュリティ技術者

急増するサイバー攻撃に対処するためには、情報セキュリティ技術者が必要となりますが、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)は、国内ユーザー企業において約8万人の情報セキュリティ技術者が不足していると分析しています。特に情報関連以外の製造業や卸売業、小売業、医療・福祉業などのユーザー業種における人材不足が顕著となっています。

また現在、情報セキュリティ関連業務に従事しているIT技術者27万人のうち、約6割の16万人についてはスキル不足が指摘されており、情報セキュリティ技術者の養成が急務になっています。

## 情報セキュリティ技術者の状況

国内のユーザー企業において  
情報セキュリティに従事している技術者  
約26.5万人

必要なスキルを  
満たしている人材  
約10.5万人

スキル不足の人材  
約16万人

不足している  
人材  
約8万人

### 不足している人材上位10業種\*

業種	不足数
卸売業・小売業	14,480
医療・福祉	8,473
運輸・郵便業	6,718
金融業・保険業	4,957
宿泊業・飲食サービス業	3,535
生活関連サービス業・娯楽業	3,301
建設・土木・工業	2,764
教育・学習支援業	2,084
情報サービス業	1,885

※その他除く

出典 IPA試算・情報セキュリティ人材育成に関する基礎調査より

## 日本発

### 実践形式のトレーニングで戦力になる 情報セキュリティ技術者を短期間に養成

GSXが提供するEC-Council公認セキュリティエンジニア養成講座は、実践的なスキルの習得に重きを置き、既存のIT技術者を即戦力となる情報セキュリティ技術者に養成する日本初のサービスです。GSXの専任日本人講師が、貴社のCSIRT (Computer Security Incident Response Team)、情報システム部門、開発部門の技術者を、短期間のうちに組織を守る情報セキュリティ技術者に養成します。

従来のセキュリティ関連資格や研修は座学を中心とした知識習得を目的としたものでしたが、EC-Council公認セキュリティエンジニア養成講座では、5日間の講習の大半をiLabsと呼ばれる仮想演習環境を用いて、ハンズオンによる実践演習を行います。セキュリティ関連の資格取得過程や研修などで習得した知識を、演習で体感することができ、より深く理解が進みます。仮想演習環境のiLabsは本養成講座開始から6カ月間ご利用いただけるため、何度でも繰り返し演習が行え、習熟度を向上させることができます。

## NEW

### ネットワークセキュリティ技術者を養成する 新たな講座を2017年1月に開講

情報セキュリティ技術者の養成を目指す企業や組織にとって、必要な人材の確保・選抜や、養成にかかる期間と費用は大きな

課題の1つです。しかし、基礎となる知識や経験を有するネットワーク技術者にセキュリティに関する知識と経験を習得させることで、短期間で確実に情報セキュリティ技術者を養成することができます。そこで、GSXでは2017年1月からネットワークセキュリティエンジニアの養成講座CND(Certified Network Defender)を提供しています。

ネットワーク技術者はエンタープライズネットワーク環境や、エンタープライズとクラウドとのハイブリッドなネットワーク環境を構築・管理しています。ネットワークトラフィック、パフォーマンス、利用率、ネットワークポロジ、システムの設置場所、セキュリティポリシーなどに精通しています。ネットワーク技術者がITセキュリティインシデントの初期段階からセキュリティに関する「防御、検出、対応」ができれば、企業や組織は、事態の悪化を最小限にすることができます。また、ネットワークの構築や再構築時にも潜在的なリスクを排除することができます。

GSXの提供するEC-Council公認セキュリティエンジニア養成講座のCND(Certified Network Defender)は、「予測可能な防御スキル」「事後対応の方法」「インシデントに対する適応的対応」の3つの観点からのアプローチで、ネットワークセキュリティ技術者に求められるスキルの習得をサポートします。

#### お問い合わせ先

グローバルセキュリティエキスパート株式会社 営業本部  
TEL:03-3578-9001 FAX:03-3578-9020  
〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1 スズエペイディアム4F  
EC-Council セキュリティエンジニア養成講座Webサイト:  
<http://www.gsx.co.jp/academy/academy.html>

## EC-Council 公認セキュリティエンジニア養成講座

本講座は、厚生労働省「キャリア形成促進助成金」「キャリアアップ助成金」の受給対象コースです

### NEW 2017年1月 開講

認定ネットワーク  
ディフェンダー



ネットワークセキュリティエンジニアに必要なスキルを習得する講座です。

認定  
ホワイトハッカー



ハッキング技術を学び、ハッカーの手法を習得する講座です。

### CND 講座概要

#### 受講対象

- ◆ ネットワークの概念について基礎的な知識を有していること (ネットワークエンジニアとして3年程度の実務経験があること)
- ◆ Cisco CCDA またはCCNA、CompTIA Network+またはSecurity+、IPAネットワークスペシャリストの資格保有者または同等のスキル保有者

#### 受講日程

- ◆ 1月23日(月)～27日(金)
  - ◆ 2月13日(月)～17日(金)
  - ◆ 3月27日(月)～31日(金)
- いずれの日程も5日間  
10:00～18:00

#### 受講料金

398,000 円(税別) 認定試験受験料金含む

## BBSグループの社会貢献活動

BBBSグループは、豊かな社会の実現とその持続的な発展に貢献するために、  
さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。  
ここでは、スポーツ分野のスポンサー活動を紹介します。

### バレーボール界を担う子どもたちを応援 —V・明日夢(みらい)プロジェクト

「V・明日夢プロジェクト」は、日本バレーボール機構に所属する元Vリーガーたちが、トップレベルで培った技術や経験をバレーボール教室などを通じて広める活動です。BBSは2012年からこの活動をサポートしています。

北京オリンピック代表選手の櫻井由香さんをはじめ、強力な講師陣が全国でバレーボール教室を開催しています。活動開始当初は小学生が対象でしたが、その後対象を広げ、今では幅広い年齢層の方が参加しています。これからのバレーボール界を担う子どもたちが、楽しく伸びやかにプレイし、未来のVリーガーやオリンピック選手として活躍してくれることを期待しています。



国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されたバレーボール教室の様子

### 国際大会で活躍する 障がい者スキー選手を応援

BBSは、2013年から日本障がい者スキー連盟のクロスカントリーチームをサポートしています。

2017年3月には札幌市でIPC(国際パラリンピック委員会)のノルディックスキーW杯が開催されます。また、2018年2月には韓国・平昌(ピョンチャン)で冬季オリンピック、パラリンピックの開催が予定されており、冬のパラリンピックへも注目が集まっています。BBSは、同連盟のスポンサーとして、こうした国際大会への出場を目指す選手の育成、そして大会での活躍に貢献しています。



「2015 IPCクロスカントリースキーワールドカップ旭川」大会の様子

#### 編集後記

思いも寄らないことが起こるのが世の常ですが、2016年も実にさまざまな出来事がありました。人間の力では抗えないことや、これまでの常識を覆すような決断が、世の中を動かすこともあったのではないのでしょうか。改めて、人の力を考えさせられる一年であったように思います。今回の表紙は2017年の干支・酉にちなんで作成。一年の初めにふさわしく艶やかで、明るく、躍動感に満ちています。皆様のこの1年が、どうぞ希望あふれる日々になりますように。



#### 株式会社ビジネスブレイン太田昭和

発行：BBS GROUP NEWS 編集室

〒105-0003 東京都港区西新橋1-2-9 日比谷セントラルビル21F  
TEL:03-3507-1300 FAX:03-3507-1301  
URL: <http://www.bbs.co.jp>

本誌に対するご意見ご要望を編集室までお寄せください。